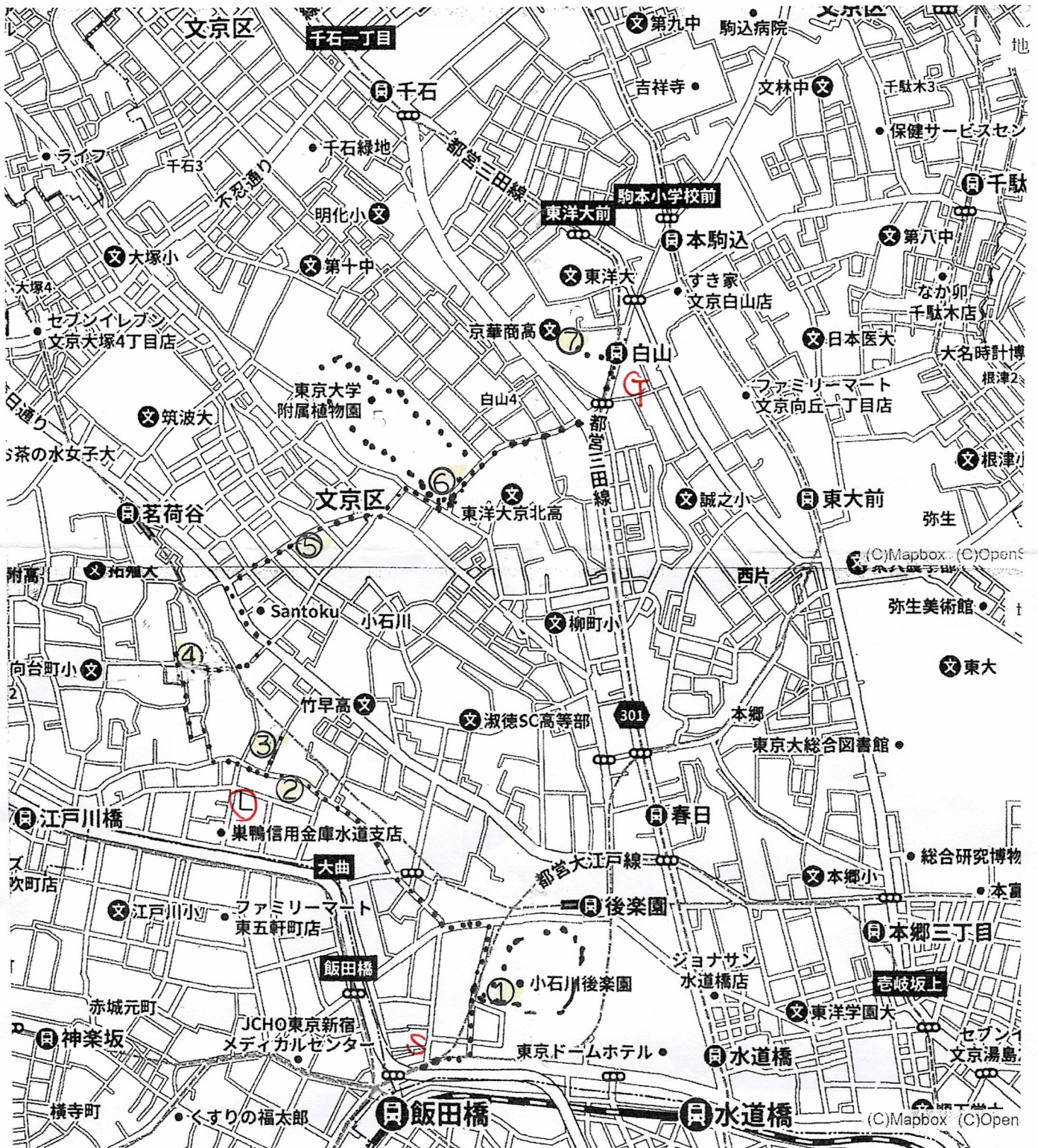


後楽園 播磨坂 小石川植物園

2022-4-2



- ①小石川後楽園
- ②水道端通り
- ③徳川慶喜邸跡
- ④切支丹屋敷 切支丹坂

- ⑤播磨坂
- ⑥小石川植物園
- ⑦.白山神社

ランチ 21:30

1.小石川後樂園 国の特別史跡及び特別名勝

江戸時代初期に水戸徳川家の江戸上屋敷内につくられた池山回遊式の大名庭園である。

1629年、水戸徳川家水戸藩初代藩主・徳川頼房が作庭し 2代藩主の光圀が改修、明の遺臣朱舜水の選名によって「後樂園」と命名して完成させた。詳細は鈴木さんに、案内板を読み上げてもらう。

2.水道端通り

神田上水は関口の堰から上水として後樂園のわきを通り、水道橋を得て神田大手町地区へ通水した。この道の下が上水路である。

地域の居住者 新渡戸稲造 永井荷風、菊池寛、黒澤明、佐藤紅緑・サトウハチロー、安部公房、

3.徳川慶喜邸跡

謹慎生活を許され、明治30年、東京に戻られ、当初は巣鴨に住んでいたが山手線の開通での騒音を嫌いこの地に移転した。大正2年この地で亡くなった。享年76歳、歴代将軍の中で最長寿だった。

4.切支丹屋敷 切支丹坂

宗門改役の井上政重の下屋敷内に牢や番所などを建て収容したのが切支丹屋敷の起こり。

1708年 イタリアの宣教師ヨハン・シドッチが屋久島に渡来し、切支丹屋敷に入れられた。新井白石はシドッチを尋問し、『西洋紀聞』にまとめられた。

5.播磨坂

第二次世界大戦後の区画整理によりできた「環状3号線」の一部として整備。

正式には「環3通り桜並木」である。かつてこの地にあった松平播磨守上屋敷にちなみ、「播磨坂」と名付けられた。

環状3号線は現在部分的に出来上がっているが、全線開通の見通しはたっていない。

現在の開通区間 外苑東通り 播磨坂 言問通り 三ツ目通り

6.小石川植物園

5代将軍徳川綱吉のこの地にあった別邸に、1684年(貞享元年)江戸幕府が小石川御薬園を開園し、その後、小石川養生所が開設された。また木昆陽が飢饉対策作物として享保20年に甘藷(サツマイモ)の試験栽培を行った所としても有名である。

・旧小石川養生所の井戸 1923年の関東大震災では飲み水として利用された。

・小石川植物園本館 1939年完成。設計は内田祥三 時計塔が市民に愛されている。

・旧東京医学校本館 国の重要文化財。1876年完成。東京大学に現存する建物としては最古のものである。1877年の東京大学設立後は医学部本部棟として使用されていた。1965年に解体され、1969年に小石川植物園内に再建された。

7. 白山神社

創開は古く、天曆年間(947~957)に加賀一宮白山神社を現在の本郷一丁目の地に勧請したと伝えられる。

後に元和年間(1615~1624)に2代将軍秀忠の命で、巣鴨原(現在の小石川植物園内)に移ったが、その後五代将軍職につく前の館林候綱吉の屋敷の造営のため、明暦元年(1655)現在地に再度移った。

この縁で綱吉と生母桂昌院の厚い帰依を受けた。